ＪＲ東海労ニュース

№1323
2009年 8月3日
ＪＲ東海労働組合

地元新聞社・ＪＲ東海労の主張に注目！

リニア・大鹿村現地学習会（主催「リニア・市民ネット」）

８月１～２日、長野県大鹿村で開催された、「リニア・市民ネット」主催の「リニア中央新幹線現地ｉｎ大鹿村」学習・見学会において、ＪＲ東海労は、当該企業の労働組合の立場で、経営への影響、安全面の課題、技術的課題など、多くの問題点が解決されておらず、反対の意思を表明していることを報告してきました。

学習会を取材していた報道関係者から、ＪＲ東海の労働組合が参加したということで注目を集めました。参加者、マスコミ関係者に対し、私たちは、単に「反対」ということのみを主張しているのではなく、会社の主張する、「バイパスの必要性」が、現時点、リニアに固執して進めなければならないほど急務なものではなく、他の方法においても、充分クリアーできることなどを訴え、地元の意見を無視した強引な進め方の問題や、安全の問題、働く者への影響などの観点から、反対していることを説明してきました。さらに、労働組合に対する情報開示が非常に弱く、必ずしも労使が一体で進められているわけではないことを強く訴えてきました。

リニア計画地の地質学習会開く

市民ネット

ＪＲ東海がリニア中央新幹線で想定する南アルプスを貫く長大トンネル構想を検証するため、長野、山梨などの４都県の住民有志でつくる「リニア・市民ネット」(代表・川村晃生慶大教授)は１、２日、地元の研究者を講師に南ア一帯の地質についての学習会を下伊那郡大鹿村内で開いた。

同ネットのメンバーら約50人が出席。１日は村中央構造線博物館を見学した。説明した同博物館の河本和朗学芸員は、隆起を続ける南アについて「斜面崩落は宿命的」と指摘。「谷底」に当たる場所にトンネルの出入り口を設けるべきでないと述べた。また、南ア周辺には地震を起こす可能性がある活断層があり、沿線となる諏訪・伊那谷回りのＢルートの安全性も「問題がある」とした。

２日は、南アの地質に詳しい松島信幸・伊那谷自然友の会会員＝同郡高森町＝を講師に、ＪＲが同村釜沢地区で昨年実施した水平ボーリング調査の開始地点を見学。地元では調査地付近が実際のルートになるとみられており、松島氏は「技術者が可能と言っても、こういう所にトンネルを開けるべきでない」とした。

学習会にはＪＲ東海の労働組合の一つ、ＪＲ東海労働組合の鈴木富雄中央執行委員長らも一般参加。経営への影響、安全面などへの疑問から、同構想に反対していると報告した。

ＪＲ東海が大鹿村釜沢地区で実施した水平ボーリング調査の開始地点周辺を見る参加者

8月3日・信濃毎日新聞